

# 沖縄島における新規のマンガース北上防止柵の形状実験について

Experiment of a new barrier against the northward migration of mongoose on Okinawa main island

河内紀浩\*・南木大祐\*・水川真希\*\*・小倉剛\*\*\*・飯島康夫\*

Norihiro, Kawauchi Daisuke, Nanki Maki, Mizukawa Go, Ogura Yasuo, Iijima

キーワード： マングース、柵、北上防止、沖縄島、

## 1. 目的

沖縄島ではやんばる（沖縄島北部地域）の生態系保全のために、2000年からマンガース対策事業を実施している。沖縄島北部地域の大宜味村や東村ではマンガースが高密度に生息していたため、2005～2006年にかけて、塩屋湾から福地ダムにかけて北上防止柵（以下、柵とする）を設置し、マンガース密度の高い南側からの侵入を防止している。それと同時に柵以北での捕獲を集中的に行い、柵以北での低密度下に成功している。しかし、道路や道路下の水管等、柵が設置できない場所もあり、マンガースの侵入が問題となっている。また、マンガース以外にも特定外来種であるタイワンスジオやタイワンハブのやんばる地域への侵入の危険性が増している状況があるため、これらの生息地と既設の柵との間に新規に柵を設置し、マンガースやタイワンスジオ等のやんばる地域への侵入防止を目指している。そこで、これら外来種の侵入を防止する新規の柵の形状の検討を行い、対策方法について検討を行った。

## 2. 方法

実験柵はマンガースの移動を制限できた既設の柵の形状を基本とし、高さ120 cm、上部と下部に30 cmの金属板を付け、その間は10 mm間隔の金属スリット、地面には30 cmの金属スリットを設置した。下部の金属板と10 mmの金属スリットは小型のヘビ類の防止の役割を担っている。

実験柵は4m四方に設置し、脱柵したマンガースが野外へ逃亡することが無いように密閉空間で行った。実験では雄7頭と雌5頭の計12頭のマンガースを使用し、1頭ずつ2時間放飼し、ビデオによる行動観察を行った。

## 3. 結果

マンガースの行動として、「柵に跳びつく」、「柵をつかみ登る」、「地面を掘る」、「柵を咬む」、「移動する」、「立ち上がる」、「静止する」が確認された。行動割合はオス・メスともにほぼ同じ割合であった。柵を越えた個体は12個体中、雄1個体、雌1個体の計2個体で認められた。脱柵した2個体はいずれも柵の2面（角度90度）を利用し柵を駆け上る方法であった。実際に柵を設置する予定場所には角部が出来る構造とならないため、この方法による脱柵は大きな問題ではないと考えられたが、角部が出来る場合を想定し、角部を金属板で覆った柵の形状で追加実験を行った。その結果、脱柵した角部に90 cmの金属板を置くことにより、脱柵した2個体は柵を越えることができなかった。

本実験により、高さ120 cm、上部・下部に30 cmの金属板、地面に30 cmの金属スリットの形状でマンガースの行動を抑制でき、既存柵と同等以上の性能を有しているものと考えられた。

---

\*所属 八千代エンジニアリング株式会社

\*\*所属 琉大院 農

\*\*\*所属 琉大 農